

次世代競争ルール検討WG（第2回）

ご説明資料

2019年8月6日
ソフトバンク株式会社

1.卸役務を中心とする他者設備利用

2.市場の融合に応じたルールの見直し

1.卸役務を中心とする他者設備利用

2.市場の融合に応じたルールの見直し

卸役務の提供条件等は
原則ビジネスベースに任せることが**適当**

但し、**ボトルネック設備に起因する市場独占性**により
実質的に競争原理が働かない卸役務に対しては
追加的ルール整備が必要

* 設備共用については、現時点では、原則ビジネスベースに任せることで良い認識
(「公益事業者の電柱・管路等使用に関するガイドライン」等の運用で問題が顕在化していないため)

ボトルネック設備起因による市場独占性が
存在する卸役務としては下記を想定

(利用者利便最大化のための競争促進・次世代インフラ整備の観点からも重要な役務)

重要卸役務

競争促進

光サービス卸(光コラボ)

⇒ スライド5

次世代インフラ整備

フレキシブルファイバ

⇒ スライド6～

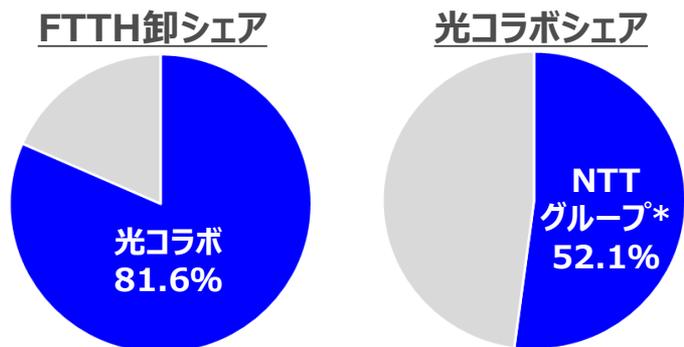
一般卸役務

光サービス卸（光コラボ）はFTTH卸サービスにおいて
市場独占的、且つサービス提供者の過半数がNTTグループ

（他FTTHサービス切り替えにおいて、市場流動性の阻害要因（切替コスト）も存在し、競争原理が十分に機能し得ない）

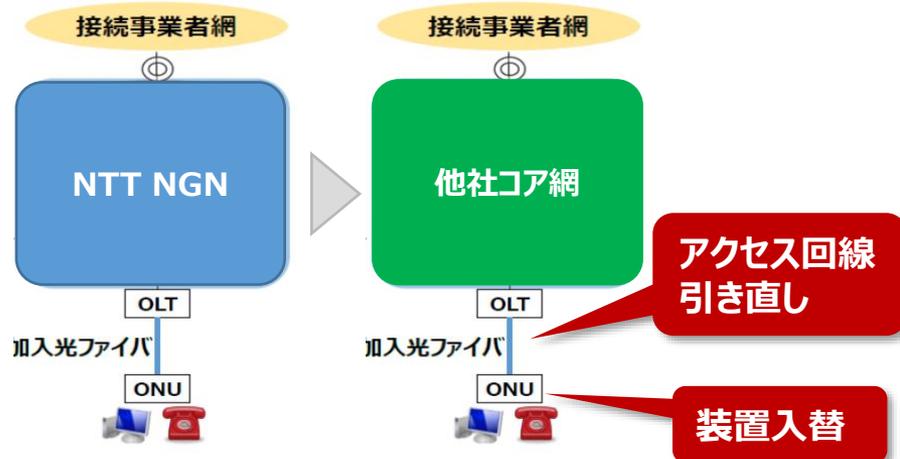
提供条件の透明性・適正性を促進すべき**重要卸役務に該当**

FTTH卸市場における独占性
(2019/3末現在)



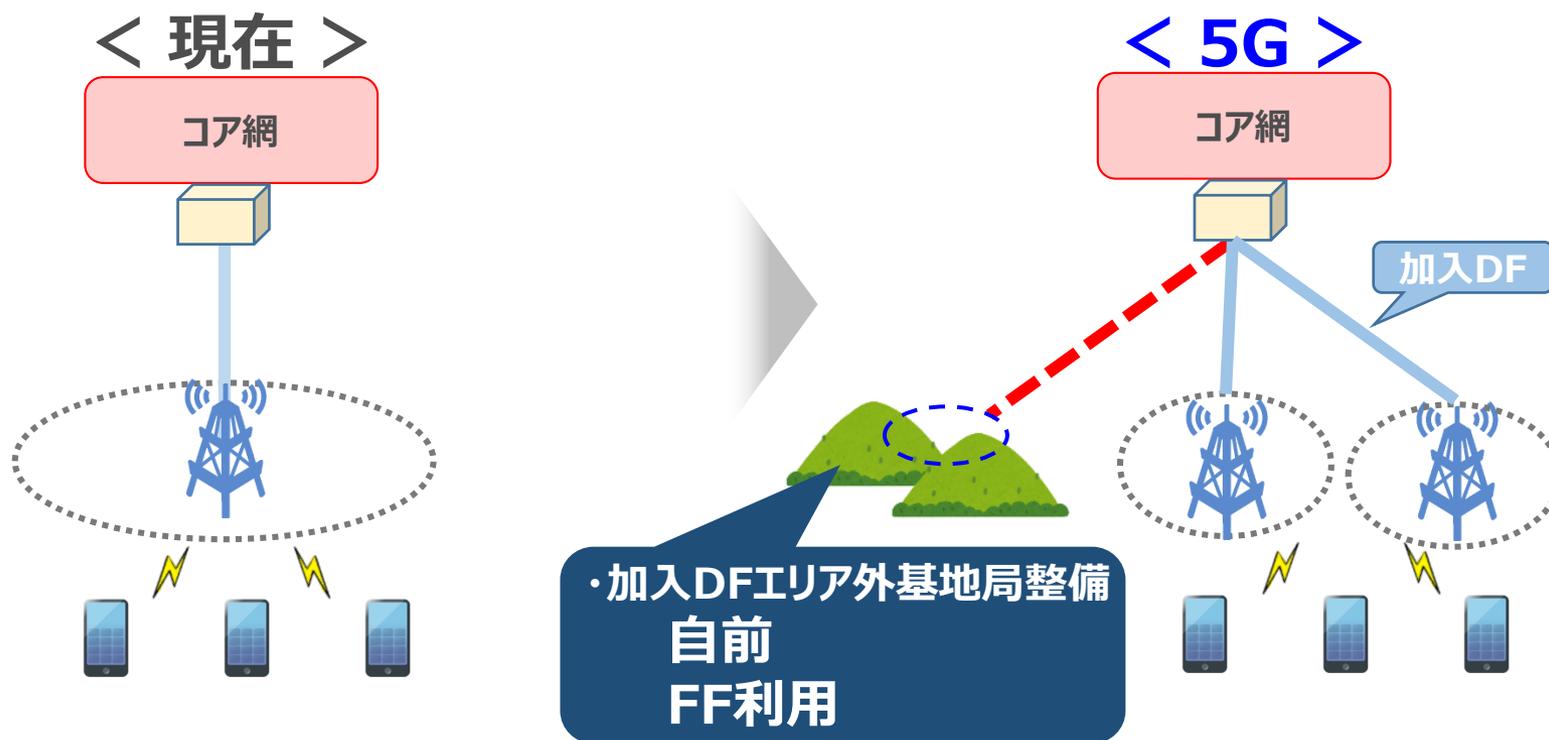
*NTTドコモ殿、
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ殿
及びNTTぷらら殿

他FTTHサービス切り替え時の発生コスト

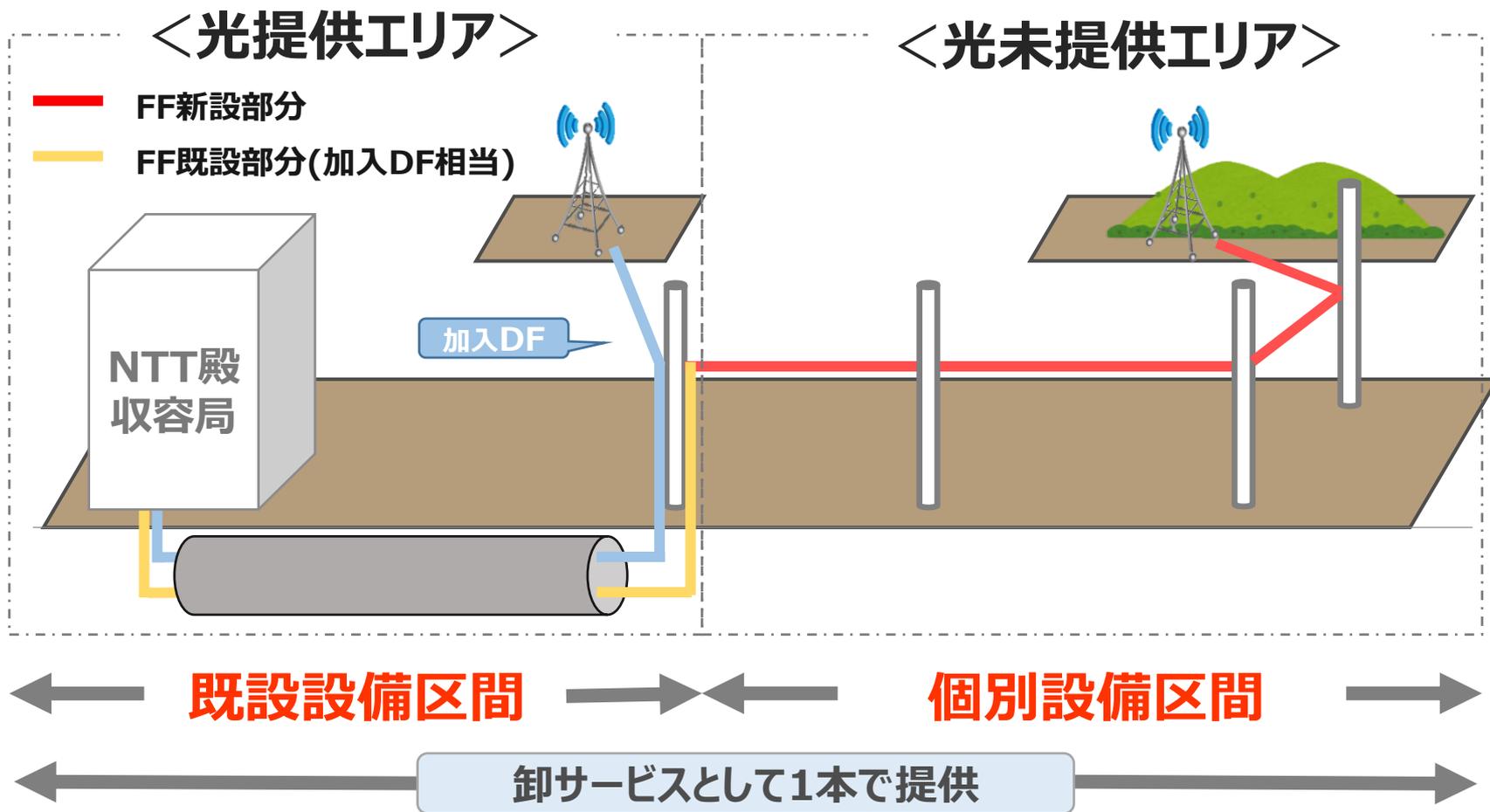


地方創生等のため、5G拡大は急務であり、ルーラルエリア等、**NTT東西殿の光エリア外におけるアクセス手段が必要**

自前またはフレキシブルファイバ（FF）での調達を想定

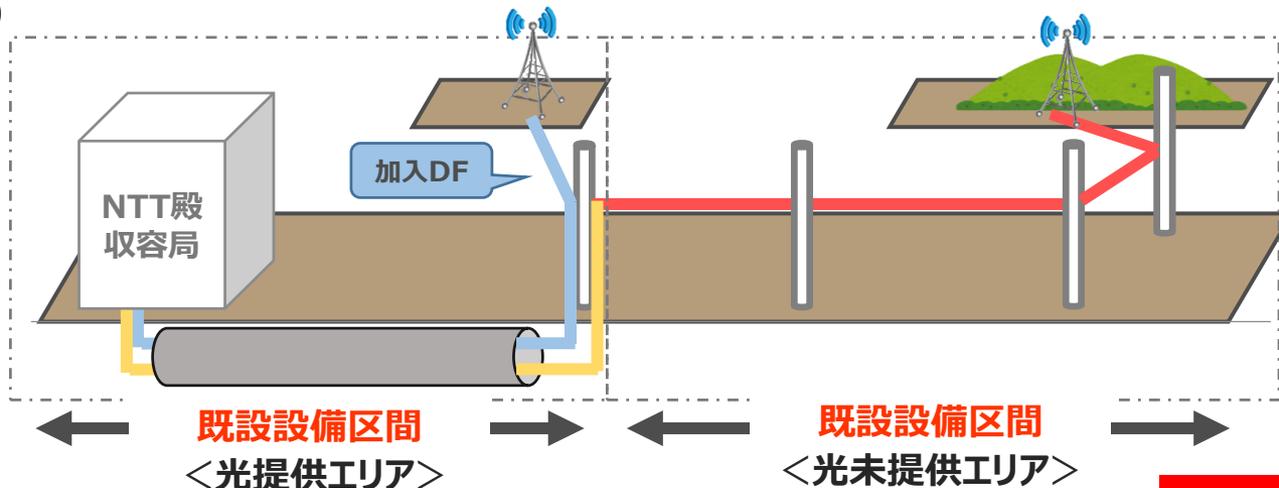


NTT東西殿が光未提供エリアにおいて
事業者が全額負担する前提で個別要望に応じて提供



(参考) フレキシブルファイバ(FF)料金

- FF新設部分
- FF既設部分(加入DF相当)



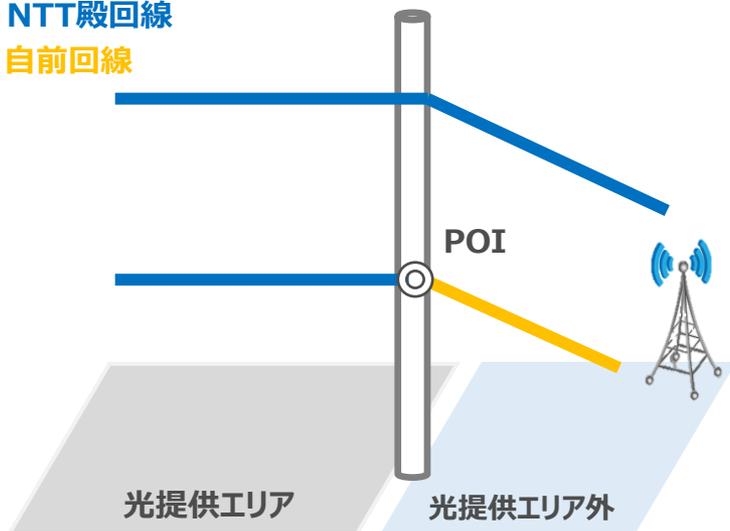
委員限り

委員限り

構築スピード及び運用保守面からも**FF利用が最も効率的**
また、今後の日本全国への5G展開を見据えると
FFの利用機会はますます高まると想定

次世代インフラ整備促進において重要な卸役務
(提供条件の透明性・適正性確保が必要)

— NTT殿回線
— 自前回線



構築スピード

運用保守

フレキシブル
ファイバ

手続き一本化
(共架申請)

1社提供

自前構築

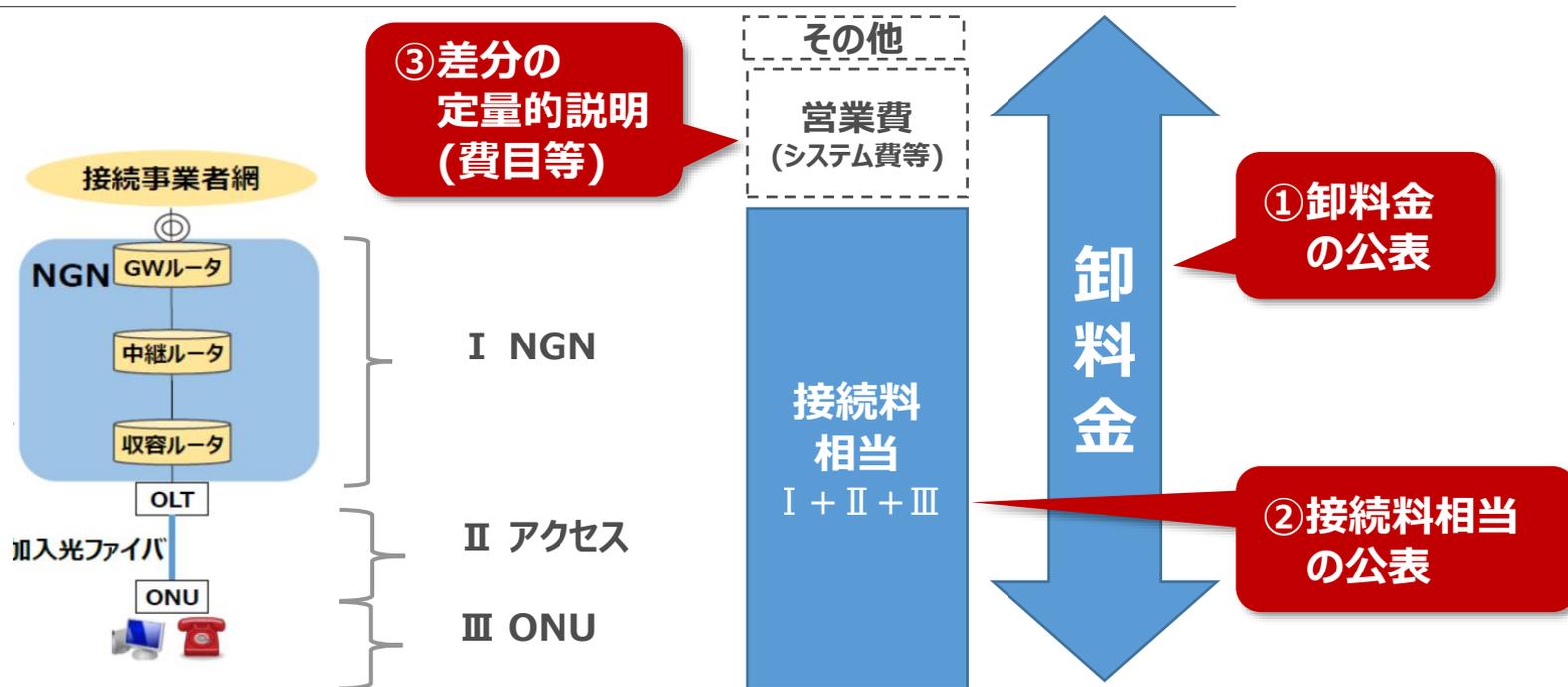
各社手続き
(複数申請)

障害時事業者
切り分け煩雑

卸料金の適正性確保のためには、**NTT東西殿が毎年**
①卸料金②接続料相当③差分の定量的説明を公表し、
オープンな場で妥当性を検証すべき

(利用者料金(割引考慮)と接続料相当額との時系列比較のみでは不十分)

例：光コラボの場合



1.卸役務を中心とする他者設備利用

2.市場の融合に応じたルールの見直し

5G時代における**光回線の重要性並びにネットワーク形態の多様化等の環境変化**に応じ、**ボトルネック領域の拡大・影響力増加に対応したルール整備が必要**

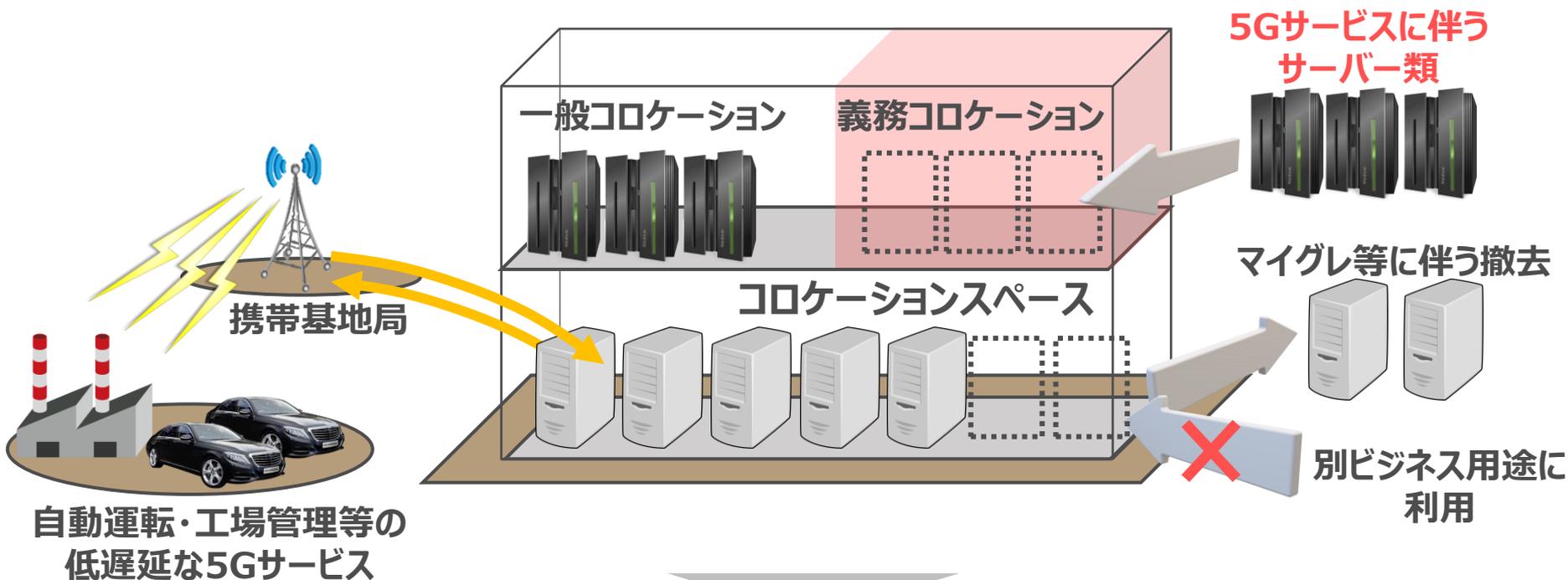
1. コロケーション需要の拡大とコロケーションスペースの維持

2. 次世代基幹コア網に係る制度課題

2-1. NTTグループ一体化懸念

2-2. 基本的機能等の公平利用・情報開示

5G時代のサービス多様化に伴い、エッジコンピューティング等 新たなNTT殿コロケーションへの需要は高まる



義務コロケーション対象の拡大

コロケーションスペースの公平な開放（NTTグループの先行確保禁止）

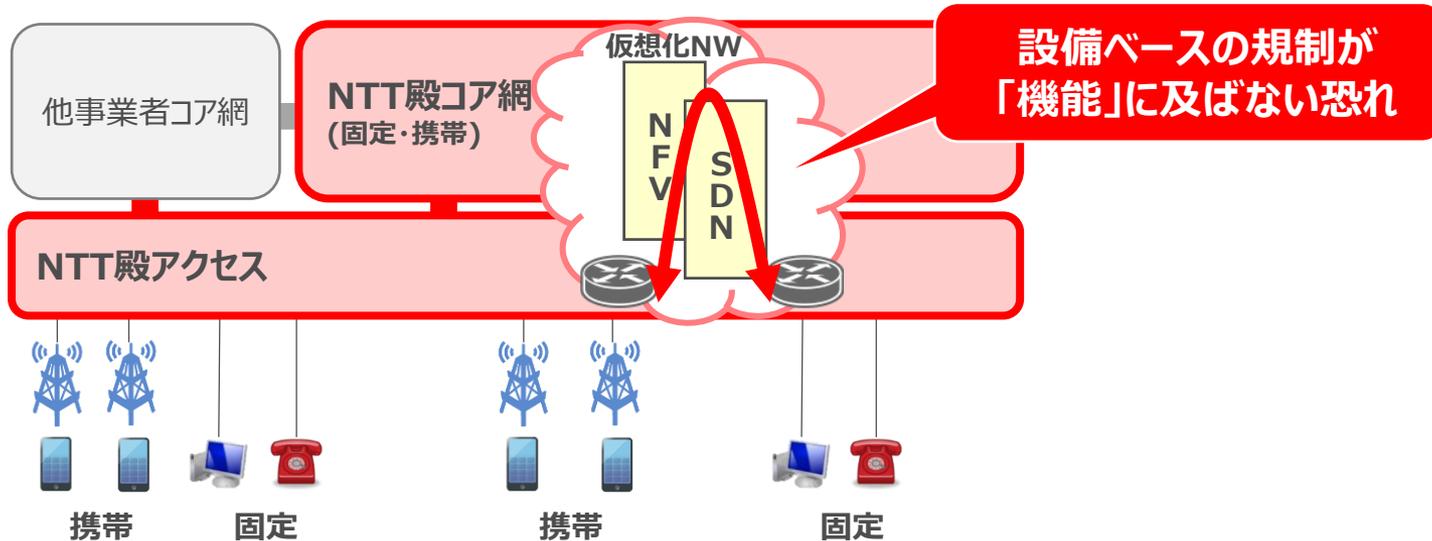
マイグレーション等に伴い空いたスペースの接続用途への確保

仮想化進展に伴いコア(固定・携帯)及びコア・アクセスの一体化が進み
NTTグループの影響力増大が懸念される

「設備」に着目した非対称規制を維持しつつ

「機能」ベースでの提供条件の透明性・適正性・公平性を確保

(ボトルネック設備相当の機能を有する機能アンバンドル、
グループドミナンスへの対処としての禁止行為規制等)

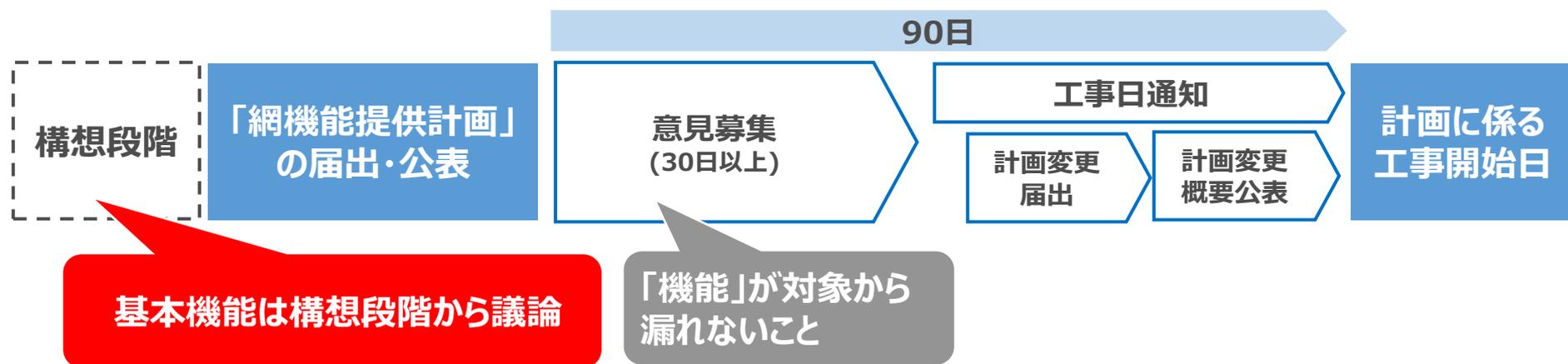


* 仮にNTT東西殿のローカル5G参入を認める場合においても、公正競争上問題となり得る
NTT東西殿とNTTドコモ殿との連携（市場支配力の相乗効果）等に対処するルール整備が最低限必要

次世代基幹的コア網はNTT東西殿の利用部門・NTTグループ会社と接続事業者が公平・同等※に利用可能な環境整備が必要

※結果の同等性のみならず、プロセスやタイミング等の同等性も確保すべき

**構想段階での仕様・実現機能のオープンな議論・
設備に縛られない「機能」に着目した情報共有を可能とすること**



過去の課題事例) NGN上での光0ABJ電話

基本的な接続機能にもかかわらず、接続事業者はサービス当初から利用できなかったため、新たにQoS機能を開発する必要が生じ、結果としてサービス開始に長期間を要した。

他者設備 利用

**ボトルネック設備起因の重要卸役務は、
提供条件の透明性・適正性の確保が必要**
(卸料金、接続料相当、差分の定量的理由を公表、オープンに妥当性検証)
(通常の卸役務や設備共用はビジネスベース)

市場の融合に 応じた ルール見直し

義務コロケ対象拡大とコロケスペース維持
(5G時代の需要増・新たな利用形態への対応)

**次世代基幹コア網での
「機能」に着目した透明性・適正性・公平性確保**
(「設備」に着目した規制も維持)

次世代基幹コア網に事業者意見が反映される仕組み
(構想段階での仕様・実現機能のオープンな議論)
(網機能提供計画届出対象拡大)